

山形南陽方言の指示の諸相

金田章宏 (千葉大学)

はじめに

山形南陽方言の名詞や形容詞などの指示詞や代名詞のわくぐみは、共通語と大きくは変わらない。特徴的なのは指示代名詞の主格とりたて形（これは、それは、あれは、に対応）が倒置によって文末に置かれ、それが接辞化して述語と一体化した結果、述語自体が指示機能を持つにいたったという文法現象である。代名詞が終助辞化する現象としては、終助辞ワが一人称代名詞ワレに由来するという柳田国男の指摘があるが、述語が指示機能を内包する例は他の言語にもほとんどみられないようだ。

本発表では代名詞、指示詞などの概要を述べた上で、指示詞の接辞化した用法について取り上げる。

話者は南陽市の南東部、旧赤湯町^{あかゆ} 柵塚^{くぬぎづか}地区在住の佐藤利一^{りいち}・いちの夫妻。報告者はおなじ旧赤湯町の出身で、西よりの二色根^{にいろね}地区に 18 歳まで住んでいたが、旧赤湯町柵塚生まれの利一氏と比べると、市の北東部中川^{なかがわ}地区（旧中川村）出身のいちの氏の言葉には、南陽市の北東側に隣接する上山^{かみのやま}市（山形市などを含む村山地方の最南部）の方言的な要素が感じられる。

本稿における表記であるが、方言は基本的にカタカナ表記とし、中舌音についてはひらがな表記とする。また、鼻音のまえには～を、母音の無声化には！を使用する。

例：ス～グに～アテ[sunjuɲi~ate]（すぐになんて）、キ！テ[k.ite]（来て）

1. 人称代名詞

1. 1 一人称

単数形ではオレ、オラ、複数形ではオレ～ダ、オラ～ダが、性別にかかわらず使用される。

▽単数

○オレ

- ・オレ チューモンスガダ ヨ。私は注文担当だ。(注文仕方。もっぱらそれをやっていた。)
- ・オレ マ～ガッテダナ キライ～ダ。私は曲がっているのが嫌いだ。
- ・ドサ～ダガ エッタ ドギダッタ ナー。オレ フーセン カッテ キ！テ ケッチャンダゴデ オミヤゲに ヨ。どこかに行ったときだったな。私が風船を買ってきてやったんだよ、お土産にね。
- ・オレ ガンコ ワレク！テ ヨー。私は頭が悪くてね。
- ・オレサ ダズン カッテ ケッカッタモ。私に駄賃（としてお菓子を）をよく買ってくれた。
- ・ヨーグ アデ サッジャ ナー オレワ。よくアテにされたな、私は。

○オラ

- ・サゲサエ アット オラ ナンにモ エラネ。酒さえあれば、私はなにもいらない。
- ・ウズニ ヨッテ ツ～ガウガッタソ ナエ オラ キーダ ゴド ネーヨナ ゴドバッカリ ユーガ

ツタガラ ヨ コゴラノ ヒ！トワ。家によって違ったもんだよね、私は聞いたことないようなことばかり言ったもんだからね、ここいらの人は。

・オラ タッペ~アテ シ！シャネガッタモ コゴラサ キ！テ オボエダ。私はタッペ（つば）なんて知らなかったもの。このあたりに来て覚えた。

・タッペ~アテ オラモ シ！シャネガッタガラ ヨ。タッペ（つば）なんて、私も知らなかったらね。

▽複数

○オレ~ダ

・オレ~ダ エッテル コロア フズガ~グラエデ オワッタッタガラ ヨ、オレ キ！テガラナノ ナ。私たちが行っているところは二日ぐらいで終わったからね。私が（嫁に）来てからなんかね。（茅を刈るのに）

・カル ゴド オ~ボエダッタモ ナ。オ~エ~ダ~アノ エッパエ カル ホー~ダッタ ナ。刈ることを覚えたものね。私たちがなんかたくさん刈るほうだったな。（ウサギ用の草刈り）

○オラ~ダ

・オラ~ダ スギ~デ ネガー カネタテ エгент。私たちがは好きじゃないから、食べなくてもいいけど。

・ソノ ハゴサ ク~ズカ~ズノゴ エッパエ ハエッテデ ナエ、サエズ オラ~ダ カレツカッタガラ ヨ。その箱にクズ数の子がたくさん入っていてね、それを私たちがはよく食べられたからね。

・エッダグ シ！ターテ ユーガッタゴデ ナエ。ケ~ガ シ！タ~アテ ヤネデ ナエー オラ~ダノ コロワ。痛くしたと言ったものだよ。ケガシタなんて言わないでね。私たちがのころは。

・オラ~ダ カンケーネーに スエロセーソー サシェラエル。私たちが関係ないのに、水路清掃をさせられる。（田んぼを作らない人も水路清掃をさせられるので、文句を言った。）

・オラ~ダヨリ ワガエ ス！トモ ハヤーグ ナグナッタモ ナ。私たちがより若い人も早く亡くなったものね。

・オラ~ダ 「モ」ーツンダ ナー。私たちがはモというんだよね。（つむじのことを、ツ<モ>~ズ）

「我が家」をさす単語にオラエがある。オレガイエからの変化か。意味の重複したオラエノウジ、オラエノエもある。

・カシェッデラ オラエノ ヒロコ。食べさせるじゃない、うちのヒロコ。

・オラエノ ジッカ~デモ ンマ エダッタガラ ナ。うちの実家でも馬がいたからね。（戦時中、中川に4頭ぐらい馬がいた。）

・エシャサーテ ス~グに~アテ ナエー ナガ~ガーアダリナ~ー エギ ツ！カエガラ ヨー オラエノウジアダリナノ ス~グに シェデ~ガレツケンド ソーワ エ~ガンニエガッタモ ナエー。医者になって、すぐになんてね、中川あたりなんか駅が近いからね、私の家あたりなんかすぐに連れて行けるけど、そうは行けなかったものね。

1. 2 二人称

二人称代名詞は基本的にはオマエ、オマエ~ダのみである。敬語的な表現でオダグ、オダグ~ダも使用されるが、目上の人には~サン（複数は~サン~ダ）と名前と呼ぶ。

▽単数

・オマエ あなた、おまえ

▽複数

・オマエ~ダ ナに ス!テンナ ヤー? あなたたち、なにしてるの?

1. 3 三人称

指示詞を参照。

2. 指示詞

2. 1 人

▽単数

○コノシ!ト

・アソゴサ エッテ ターミ シ!テッカッタソ ナエ コノシ!ト。あそこに行って田見をしていたもんだよね、この人。(田んぼをみるのが楽しみで、よく田を見に行っていた。)

○ソノシ!ト

例ナシ

○アノシ!ト

・アノシ!ト ナリ オッケソ ナエー。あの人、背が大きいよね。

・アノシ!ト ナリ チッチャエソ ナエー。あの人、背が小さいよね。

・アノシ!ト ガンコ エーソ ナエー。あの人、頭がいいよね。

・(コゴノ シ!ト ここの人)

・ソゴノ シ!ト そこの人

・アソゴノ ヒ!ト あそこの人

・(コッチノ シ!ト こっちの人)

・ソッチノ シ!ト そっちの人

・アッチノ シ!ト あっちの人

▽複数

○コノシ!ト~ダ この人たち

○ソノシ!ト~ダ その人たち

○アノシ!ト~ダワ ナにナに ス!テル シ!ト~ダ。あの人たちはナニナニしている人だ。

・アノシ!ト~ダドワ マ~ズ マエにズミダエ アウガッタゴデ ナエ。あの人たちとはまず、毎日のように会ったもんだよね。

指示詞の複数形は人の複数をあらわすのに使用される。

- コエズ~ダ~ダ。 こいつたちだ。
- (ソエズ~ダ~ダ) そいつたちだ。
- (アエズ~ダ~ダ) あいつたちだ。

2. 2 もの

▽コエズ、ソエズ/サエズ、アエズ

○コエズ

- ・エヤエヤ コエズ ショッパエゴド ショッパエゴド。いやはや、これ、しょっぱい、しょっぱい。
- ・コエズ ナにツーナヤ? これはなんて言うの?
- ・コエズ ナに ハナヤ? これはなんの花?
- ・コエズ ナに オジャヤ? これはなんのお茶?

○ソエズ/サエズ

- ・ナに スッカッタ? ソエズ。 なににした? それを。
- ・ソノ ハゴサ ク~ズカ~ズノゴ エッパエ ハエツテデ ナエ、サエズ オラ~ダ カレツカッタガラ ヨ。その箱にくず数の子がたくさん入っていてね、それを私たちはよく食べられたからね。
- ・ソエツツア ツエデ~ガネド キ!コエネ ワケ~ダ。それについていかないと、聞こえないわけだ。(畑に行く母親について行かないと昔話が聞けない。)
- ・ソエツ!サ マグガッタ ナ。ソシ!テ チーツチャエ ウズ コダナ ウズ オロヌエデ フ! ツーノ トゴサ ウエデ ソシ!テ ス!ツカッタモ ナエー。ンダガラ テマ カガツカッタ ソー。それに蒔いたものだ。そして、小さいうち、こんなうちに間引いて、普通の床に植えて、そして、したものだよね。だから、手間がかかった。
- ・マメ ス!コシ ツグッテルンダ、マメモ ハダゲサ。ンダド ソエズ~デ マメコギシ!テ。豆を少し作っているんだ、豆も畑に。そうすると、それで豆扱きをして。

○アエズ

- ・アエズ ムス!カッタндаベズ ナエ。ムシ!テ ソシ!テ カワガス!カッタ ンネ ガエ。あれ、蒸したんだろうね。蒸して、そして、乾かしたんじゃないかな。
- ・アッチノ ヤジノ ホーノ シ!ト~デ、アエズノ … カウガッタ モ。あっちの谷地のほうの人で、あれの…よく買ったものだ。(稲藁が足りなくて、谷地の人から堆肥用の稲藁を買った。)

▽代述語?

具体的な意味をもつ語彙を使用するかわりに、指示詞を使用する。文脈により、理解に支障がなく、そのままのときもあれば、直後に言い直すばあいもある。

- ・キ!カイサ ヒ!ツカラマガツカラ ヨー ヤッパリ ナエー ク!サモ アエズ サンニエモ ナー。機械に絡まるからね、やっぱりネ、草もアレできないものね。
- ・タマ~ゴ アエズ スル~グラエワ。卵をアレするぐらいは。(産ませて家で食べる程度は)
- ・ソンジエ アエズ~ダ。それではアレだ。(だめだ、よくない。)

・ソユニ オッケグナルマエ ナエ キ!カエデ アノ アエズ スズズド オゴスズド イエーンダゲント。ソレ~ガ コヤスに ナンダゲント ナエー。そういうふうになるまえにネ、機械でアノ、アレすると、起こすといいいんだけど。それが肥やしになるんだけどね。

・ムガスワ ヨー ホントに コメ アエズ~ダ カシエーテ ヨグ クッカッタ ナエ。クル シ!ト エッカッタ ヨー。トナリキンジョ~デモ ナー。むかしはね、ほんとに、米をアレダ、貸せって、よく来たよね。来る人がいたよ。隣近所でもね。

▽コレ、ソレ、アレ

○コレ

・ス~ズ ノ~ビッタンダ ナー コレア。筋が伸びているんだな、これは。

○ソレ

・エネ カッテ カンソースuppe、ソレオ コンド ムガシ ズット ムガシナノ センバンドガ ナにガ~デ シ! ッタモンダーテ ユーゲント ナエー。稲を刈って乾燥するだろう、それをこんど、むかし、ずっとむかしなんて、センバン(千歯抜き?)とかなんかでやっていたというけどね。

・ノゴサッテダ キー アッタガラ ソレ~ガ オッキグ ナッタ。残してある木があったから、それが大きくなった。(自分が買うまえの人が植えた杉が大きくなっている。)

・マエにジ シップ ハッテッソ ンダガラ。ンデモ ハッテモ ナエ キモジ エーゴントラ ソンジェ エーベス ナエー。毎日湿布を貼っているよ、だから。それでも、貼ってもね、気持ちがいいならそれでいいだろうしね。

○アレ

・アレ キグガッタ ヨ。あれ、効いたよ。(メンタムについて)

・ンマエ ヨ ナエ、タゴノ サスミ。ナンダガ スナコク!テ ナ アレア。おいしいよね、タコの刺身。なんだかシナコくてね、あれは。

2. 3 場所

▽コゴ、ソゴ、アソゴ、ドゴ

与格的な意味の一部をになうサ格では、より方言的なコサ、ソサ、ドサも使用されるが、ア系のアサやアソサはない。

○コゴ

・コゴ カワサ ツ!カエ。ここは川に近い。

・ワリト ンダゲント コゴサ クッソ ナエ。わりと、そうだけど、ここに来るよね。(赤とんぼが)

・コゴサ ヘレロ。ここに入れる。

○ソゴ

・ソゴノ コヤ シ! ットズ エモ ツグッカッタ。その小屋いっぱい、さつま芋を作ったものだ。

・ソサ デモノ シ! ッタデッソ。そこにおでき出ているよ。

・ソサ にホン アッタゴデ ンメ ソゴサ。そこに2本あったよ、梅がそこに。

○アソゴ

・アソゴサ エッテ ターミ シ!テッカッタ ソ ナエ コノシ!ト。あそこに行って田見をしていたもんだよね、この人。(田んぼをみるのが楽しみで、よく田を見に行っていた。)

・アソゴノ ヨシノ~ガワ~デ シ!テッカッタモ ナエ。あそこの吉野川でよくやっていたものね。

・ドサ エッタンダベード モッテッド アソゴノ カ~ドコノ タンボサ エッテ タンボミ シ!テッカッタガラ ヨ。どこに行ったんだろうと思っていると、あそこの角の田んぼに行って、よく田んぼ見をしていたからね。

・エズツ!カン カガッカッタ ナ アソゴノ アスノクズマ~デ カミノヤマノ エギガラ。1時間かかったね。あそこのアスノクズまで、上山の駅から。

○ドゴ

・ドゴ エッダグ シ!タ? どこを痛くした?

▽コゴラ、ソゴラ、アソゴラ、ドゴラ

○コゴラ

・アシェテ ユーガッタベチェ コゴラ。アシェと言ったものだよ、このあたり。(汗のことを)

・モモモ ウェダ ゴド ナエー。コゴラ。ウジデワ ヨ。桃も植えたことない。このあたり。うちではね。

・ユー~ガオモ ツグッカッタベ ナ、コゴラ~デ。ユウガオも作っただろうね、このあたりで。

・オラ タッペ~アテ シ!シャネガッタモ コゴラサ キ!テ オボエダ。私はタッペ(つば)なんて知らなかったもの。このあたりに来て覚えた。

○ソゴラ

・ソゴラサ エダ ンネガ。その辺にいるんじゃない。

・ソゴラに エダ ンネガ。その辺にいるんじゃない。

○アソゴラ

・アソゴラサ エッテ アスンデダ ンネベガ。あの辺に行って遊んでいるんじゃないかな。

○ドゴラ (ヘン)

・アノシ!ト ドゴラヘンダケラ? あの人、どのあたりだっけ?

2. 4 方向

▽コッツ、ソッツ、アッツ、ドッツ

与格的な意味の一部をになうサ格では、より方言的なコッチャ、ソッチャ、アッチャ、ドッチャも使用される。

○コッツ

・コッツノ ヤズノ ホーサモ エ~ビナ エダッタベー。こっちの谷地のほうにもエビなんかいたんじゃないかな。

・コッツ、ヤズノ ホー~デ トッカッタデア。こっち、谷地のほうでよくとったもんじゃない。

○ソッツ

・ソッツ コッツ エッダエー。そちらこちらが痛い。

○アツツ

・アッチノ ヤジノ ホーノ シ!ト~デ、アエズノ … カウガッタ モ。あっちの谷地のほうの人で、あれの…よく買ったものだ。

・マダ アツツサ ウェンナ~ダガ シ!シャネゲント キンナアダリ シ!ッタンネガ。またあっちに植えるんだか知らないけど、きのうあたり、しているんじゃないかな。(その作業を)

・アッチャ エツテ シェギ シ!ショー。あっちに行つて咳をしろ。

○ドツツ

例ナシ

2. 5 ようす・状態

▽形容詞 1 コ~ゲナ、ソ~ゲナ、ア~ゲナ、ド~ゲナ

○コ~ゲナ

・シェンニア ナエー コ~ゲナ ドンコロ カットツカッタガラ ナエー。キ!ツテ、シオク~ズラヨ。以前はね、こんな塊をよく買っておいだからね。切つて。塩鯨ね。

・コン~ゲナ モノ モラッタツテ こんなものをもらつても

・コ~ゲナ モノ こんなもの

○ソ~ゲナ

例ナシ

○ア~ゲナ

・ヒロコ~ダナー ジェッタエ ハランニエツ~デラ。ア~ゲナ マックロ!グ ナツタリ シ!テツケンド。ヒロコたちなんかぜつたいに貼れないと言うじゃない。あんな真っ黒になつたりしているけど。(日に焼けて。湿布を)

▽形容詞 2 卑語的 コツ!ケナ、ソツ!ケナ、アツ!ケナ、ドツ!ケナ

・コツ!ケナ モノ こんなもの

・ソツ!ケナ モノ そんなもの

・アツ!ケナ モノ あんなもの

▽形容詞 3 村山地方的 コダナ、ソダナ、アダナ、ドダナ

○コダナ

・ソエツ!サ マグガッタ ナ。ソシ!テ チーツチャエ ウズ コダナ ウズ オロヌエデ フ!ツーノ トゴサ ウエデ ソシ!テ ス!ツカッタモ ナエー。ンダガラ テマ カガツカッタ ソー。それに蒔いたものだ。そして、小さいうち、こんなうちに間引いて、普通の床に植えて、そして、したものだよね。だから、手間がかかった。

・コダナ モノ こんなもの

○ソダナ

・ソ(ッ)ダナ モノ そんなもの

・ソダナ モノ そんなもの

○アダナ

・アダナ モノ あんなもの

・アダナ ダメ~ダ。 あんなのダメだ。(名詞的用法)

▽動詞 コーユー、ソーユー、アーユー、ドーユー

○コーユー

・コーユー ヒ!ト こういう人

・コユ ゴドア ワレ ゴド~ダガラ サンニエ ~ゾ。 こういうことは悪いことだからしてはいけないよ。

○ソーユー

・ソーユー ヤロメラ そういうやつら

・エマワ ソユフナ カットグ ドゴ ネーガラ ヨ。いまはそういうふうなのを飼っておくところがないからね。

○アーユー

・アユナ ハエツテッカッタ ナ。サマー~ザマ ヘツジェ カツテ ケッカッタ。 ああいうのが入っていたものだ。さまざま入れて、買ってくれたものだ。

▽副詞 1 コー、ソー、アー、ドー

○コー

・アガユワ コー アルガンナネベ マジマデ ネアー。赤湯はこう、歩かなくちゃならないだろう、街までね。

○ソー

・エシャサーテ ス~グに~アテ ナエー ナガ~ガーアダリナ~ エギ ツ!カエガラ ヨー オラエノ ウジアダリナノ ス~グに シエデ~ガレッケンド ソーワ エ~ガンニエガッタモ ナエー。医者になって、すぐになんてね、中川あたりなんか駅が近いからね、私の家のあたりなんかすぐに連れて行けるけど、そうは行けなかったものね。

・モンペナテ ハエデル シ!ト ソー エナエガッタ モノ ミナ タズゲ~デ。もんぺなんてはいている人は、そうはいなかったもの。みんなタズゲで。

○アー

例ナシ

▽副詞 2 コ~ゲに、ソ~ゲに、ア~ゲに、ド~ゲに (「に」は任意)

○コ~ゲに

・コ~ガエにモ デッカッタダ。 こんなにも出たものだ。(ウドが一株からたくさん出た。)

・コ~ゲに シマエ モノ ネーモ ナーテ サゲ ヨ サゲノ ゴド ナ。 こんなにおいしいもの、ないものね、って、酒、酒のことね。

・ンダガラ エマ コ~ガエ シ!テ エンナネデコ。ノーカワ ヤッパリ エシャサ エ~グド ナ

ンチ!カント。だから、いまはこんなふうにしていなければならないよ。農家はやっぱり、医者に行く
と何時間も。(時間をとられるから、なかなか行けない。)

・コ〜ゲに イェー モノ こんなにいいもの

・コン〜ガエ オッケグ ナンナデ カラグネー ナンバン ツグッテツカッタガラ ヨ。こんなに大
きくなるので、辛くない唐辛子を作っていたからね。

○ソ〜ゲに

・ソ〜ゲ ネンナネホ〜ド クーナ バガ〜ダ。そんなに寝なければならないほど食べるのはバカだ。

・ヤッパリ ナガ〜ガワアダリサ エッ ドギナ ハエシヤサナテ ソ〜ガエ エ〜ガンニエガラ ヨ
アノ シェーロ〜ガン ツメロ〜ダノ ンメ〜ボシ ツメロ〜アテ エダモン〜ダモ ナエ ンメ〜ボシ
ハッパ。やっぱり、中川あたりにいるときなんか、歯医者になんてそんなに行けないからね、あの、正
露丸を詰めるだの、梅干しを詰めるなんて(そうやって)いたものだものね。梅干し、葉っぱ。

・ドサ〜ダガ エッタ ドギダッタ ナー。オレ フーセン カッテ キ!テ ケッチャンダゴデ。オ
ミヤゲに ヨ。ソ〜ガエ ヨロゴ〜バネケ ナー。どこかに行ったときだったなあ。私が風船を買ってき
てやったんだよ。お土産にね。そんなに喜ばなかったな。

・ソ〜ゲに イェー モノ そんなにいいもの

○ア〜ゲに

・ア〜ゲに イェー モノ あんなにいいもの

▽副詞 3 村山地方的 コダエ、ソダエ、アダエ、ドダエ

・キンナ アダエ イェー モノ モラッテ ナー。きのうあんなにいいものをもらってね。

2. 6 連体詞

▽コノ、ソノ、アノ、ドノ

○コノ

・コノ き ナにノ きヤ? この木はなんの木?

・コノ タンボノ エネ カンベア。この田んぼの稲を刈ろう。

・コノ ハダゲ にマエ〜グラエ ツグツカッタ。この畑2枚ぐらい作ったものだ。(ジャガイモを)

・コノ ツ!キ!ショ ドー。このチキショー、ドー。(牛や馬を止めるときの言葉)

○ソノ

・ムガシワ アソゴ ズット ホラ エマワ ゼンブ ウジ タッテツケンド ムガシワ ホントに
アルグ ドゴ アッタモ ナエ カミノヤマワ ス〜グ マジ〜ダッタガラ ナエ ソノ シェモ アッ
タバゲント ヨ カエモノナテ ユーナワ ナ。むかしはあそこをずっと、ほら、いまはぜんぶ家が建
っているけど、むかしはほんとに歩くところがあったものね。上山はすぐ街だったからね、そのせいも
あったろうけどね、買い物なんていうのはね。

・ソノ イゲツ!サ ミダグネ ゴド ナー。そのいやな顔、見たくないことね。

・ソノ ツ!サ アラエ マ〜ズ。フゲ マ〜ズ。その顔、洗え。拭け。

・ソノ サガナ ホス!タ ドサ ウ〜ズ エツカッタ。その魚を干したところにウジがいたものだ。

・ソノ ハゴサ ク〜ズカ〜ズノゴ エツパエ ハエツテデ ナエ、サエズ オラ〜ダ カレツカッタガラ ヨ。その箱にくず数の子がたくさん入っていてね、それを私たちは食べられたからね。

・ソノ コロ ヨーナス ツグッタッタガラ。そのころ洋ナシを作ったから。

○アノ

・ショーユ ツ！ケデ カ〜ジリカ〜ジリ アノ カツラエナ。醤油をつけてかじりかじり、あの辛いのを。

・アノ ゴマムス ヤンダク！テ ナエ。あのゴマムシ、いやでね。

3. 疑問詞・不定詞

3. 1 人、もの

○人

・ダレ キ！タナヤ？ だれが来たの？（単数）

・ダレ〜ダ キ！タナヤ？ だれたちが来たの？（複数）

○もの、こと

かざられる語彙によって、疑問詞「ナに」がハダカ形で連用的に、また連体的に使用される。

与格的

・ナに ス！ツカッタ ゴド？ なににしたの？（もぐさを）

・ナに スカッタ ソエズ？ なににした、それ？

連体格的（種類をあらわす）

・コエズ ナに ハナヤ？ これはなんの花？

・コエズ ナに オジャヤ？ これはなんのお茶？

・ナに タネヤ？ なんの種？

・ナに キューリヤ？ なんのキュウリ？

・ナに ナエヤ？ なんの苗？

連体格

・ナにノ ビョーギ〜ダベ？ なんの病気だろう？

・ナにノ タネヤ？ なんの種？

・コノ き ナにノ きヤ？ この木、なんの木なの？

・ナにノ きドガ カにノ きドガテ。なにになにの木とか、なにになにの木とかって。

引用

・コエズ ナにツーナヤ？ これ、なんて言うの？

・アエズ ナにツ〜ア〜ダケラ、テ。あれ、なんて言うんだっけ？って。

・トー〜ガンテ ナンツ〜ケラ？ 冬瓜って、なんて言ったっけ？

複合語になる。

・ナに〜ズゲヤ？ なに漬け？（漬け物）

3. 2 ようす・状態

・ナ~ジョ シ!テ クーガモ、ナ~ジョ ス!ツカモ ワガンネ ナ。どうやって食べるかも、どうするかもわからないな。

3. 3 疑問詞+モ・デモ

ぜんぶまたはゼロであることをあらわす。

・アガユヨリワ ナ カミノヤマノ ホー~ガ ナに一~ゴドモ ナ カエモノ~デモ ナンデモ。赤湯よりはね、上山のほうがなんでもね、買い物でもなんでも。

・ドゴモ カゴモ ミナ エッダエー。どこもかしこも、みな痛い。

・キョー ナー ヤロ ガッコー ア~ガッたら ドサーモ エ~ガネデ コエ ヨー。きょうね、息子、学校が終わったら、どこにも行かないで来いよ。

・ナンにモ スネ~デ タ~ダ アノ フロサ エツチェ モラッテ ソシ!テ クルタゲダゲンド。なにもしないで、ただあの、風呂に入れてもらって、そして、来るだけだけど。

3. 4 不定詞

○(~トガ) ナにガ

・エネ カッテ カンソースッペ、ソレオ コンド ムガシ ズット ムガシナノ センバンドガ ナにガ~デ シ! ッタモンダーテ ユーゲント ナエー。稲を刈って乾燥するだろう、それをこんど、むかし、ずっとむかしなんて、センバン(千歯抜き?)とかなにかでやっていたというけどね。

○ナンダガ

・ンマエ ヨ ナエ、タゴノ サスミ。ナンダガ スナコク!テ ナ アレア。おいしいよね、タコの刺身。なんだかシナコくてね、あれは。

○ナントガ

・モット ハヤグ コエ~バ ナントガ ナッタノに ナー。もっとはやく来ればなんとかなったのにな。

○ドサ~ダガ

・ドサ~ダガ エッタ ドギダッタ ナー。オレ フーセン カッテ キ!テ ケツチャンダゴデ オミヤゲに ヨ。ソ~ガエ ヨロゴ~バネケ ナー。どこかに行ったときだったな。私が風船を買ってきてやったんだよ、お土産にね。そんなに喜ばなかったな。

4. 間投詞

コノ、ソノ、アノが間投詞に使用される。比較的交代可能か。

○コノ

・コゴラ~デ ンマツジェ ソス!テ ヤッパリ コノ チューカンニ ナエ ガッコーダ ナンダテ エネエガッタリ ス! ット ワガンネグ ナルモ ナエ。このあたりで生まれて、そして、やっぱりこ

の、中間にね、学校だナンダって、いなかったりすると、わからなくなるものね。

○ソノ

・オモシェク！テ ナ。ソノ トリガダ。おもしろくてね。その（それを）採るのが。（タケノコの一
種を）

○アノ

・エツパエ アノ ツズミサナー エダッタ ゼー。エビシ！ショイ シロ～アテ ヤツジエ。いっば
い、あの、堤になんかいたよ。エビ拾いをしろなんて言われて。（堤の水を抜いてからエビをひろう。）

・ガに～アテ アノ ナエ ヤマノ ミ～ズ、ヤマミ～ズノ エスノ シ！タサナー ガに エツカッタ
デア ナエ、チチャーコエナ。サワ～ガに。カニなんて、あのね、山の水、山水の石の下になんか、カニ
がいたよね、小さいの、サワガニ。

・ダッシメンミダエナサ ツ！ケデ ソシ！テ ナンベンモ アノ ハジ ササツジャ ドギナノ
ツケローテ。脱脂綿のようなのにつけて、そして、何回も、あの、蜂に刺されたときなんか、つけろっ
て。

・アノ コスナンカ アスナンケー ノッカッテ ネー。あの、腰なんか、足なんかののっかってね。
（マッサージの話）

・ナンにモ スネ～デ タ～ダ アノ フロサ エツチェ モラッテ ソシ！テ クルタゲダゲンド。
なにもしないで、ただあの、風呂に入れてもらって、そして、来るだけだけど。（デイサービスの話）

・ヤッパリ ヨー ムガスア キモノ キ！テ ナエー イマミダエ フグデ ナエーガラ ナエー
アノ キモノ～モ タ～ダ ヒモ～デ ユツツバッタ～グラエ～ダガラ ヨ ヘソ デル、ダス！テル ワ
ゲ…。やっぱりね、むかしは着物を着てね、いまのように服じゃないからね、あの、着物も、ただヒモ
で結んだぐらいだからね、へそが出る、出してるわけ…。

5. 指示接辞

山形県の中南部を中心とした地域で広くみられるのが、「これは、それは、あれは」が倒置によって融
合、接辞化し、コ、ソ、ラとして述語の一部に取り込まれた結果、述語が指示の機能をもつにいたった
という現象である。

コレワ>コラ>コ、ソレワ>ソラ>ソ、アレワ>アラ>ラ

共通語の指示詞と同様に、具体物を指示する直接的な用法のほかに文脈指示の用法などがみられる。

5. 1 デコ・デソ・デラ

発見や気づきなどをあらわすのべたて文で、その対象となる具体物などの存在するなわばりをさしし
めす。

○デコ

具体物などが話し手のなわばりにあることをしめす。独話的に発話されることもある。

・シオンベ タツジエ キ！タンダデコ。小便をしてきたんだ。（トイレから戻った夫をみて）

・アツテコ。ここにあるじゃない。（作例）

○デソ

具体物などが聞き手のなわばりにあることをしめす。

- ・エツダグ シ!タデソ。痛くしたじゃない。(あなたのそこ)
- ・ウミ デデ ウンダダデソ。膿が出てうんだんだよ。(あなたのそこ)
- ・ツ!ササ オサエ ツエツダデソ。あなた、顔におかずがついているよ。
- ・ハナ~ゲ ノ~ビダデソ。あなた、鼻毛が伸びたよ。(伸びてるよ。)
- ・ハナ~ズ デツダデソ。あなた、鼻血が出ているよ。
- ・ソサ デモノ シ!ツタデソ。あなた、そこにおでき出ているよ。

○デラ

具体物などが話し手からも聞き手からもはなれたところにあることをしめす。

- ・アソゴサ アツテラ。あそこにあるじゃない。(作例)

このほかに、つぎのような用法がある。

○デコ

話し手の周囲の「いまの」「この」状態を再認識する。

- ・タマに オモイダシ!テッド オガシエデコ。たまに思い出しているとおかしいよ。
- ・ンダガラ エマ コ~ガエ シ!テ エンナネデコ。だから、いまはこんなふうにしていなければならないよ。
- ・エマ ハエモ エネデコハ。いまハエもいないよ。

○デラ

聞き手と共有する情報を再確認する。

- ・キグラ~ゲ:ク!ファノキアダリサ デツカッタデラ。桑の木あたりによく出たじゃない。
- ・カダカエナツーナ ビツタラコエナ エツカッタデラ。カタカイ(淡水の二枚貝の一種)なんていうの、平たいのがよくいたじゃない。
- ・ハエッド デハラニエグ ナンナ~ダデラ。入ると出られなくなるんじゃない。
- ・ク~ズラノ ア~ズダゲ スツデラ。鯨の味だけするじゃない。
- ・ムギ~ザメモ ンマエデラ。ムキ鮫もおいしいじゃない。
- ・カシエツデラ オラエノ ヒロコ。食べさせるじゃない、うちのヒロコが。
- ・センソート~ジナノ アマエナ クツカッタデラ カ~ドナノ。戦争当時なんか、あまいのが来たじゃない、ニシンなんか。(配給で)
- ・ヒロコ~ダナー ジェッタエ ハラニエツ~デラ。ア~ゲナ マックロ!グ ナツタリ シ!テツケンド。ヒロコたちなんかぜったいに貼れないというじゃない。あんな真っ黒になつたりしているけど。(日に焼けて。湿布を)
- ・エマモ アツテラ。いまもあるじゃない。
- ・カギナノ スンポエノ ホサ ナツテアデラ。柿なんか、梢のほうになっているじゃない。
- ・ン~ダケデラ ナ。そうだったじゃない、ね。
- ・コチョ~ガシエア~テ ユーデラ。(くすぐれ、ということを)コチョガシエなんていうじゃない。
- ・エ~ビミダエ ナツタデラー~アテ ナ。エビのようになったじゃない、なんてね。
- ・キイジ~ゴガ? アツカッタデア ナエ。木苺か? あつたじゃない、ね。

・タンスモ アゲネナ カメ に~ゲデッターリ スツデア。タンスも開けないのに、カメが逃げていたりするじゃない。

・ガに~アテ アノ ナエ ヤマノ ミ~ズ、ヤマミ~ズノ エスノ シ!タサナー ガに エッカッタデア ナエ、チチャーコエナ。サワ~ガに。カニなんて、あのね、山の水、山水の石の下になんか、カニがいたよね、小さいの、サワガニ。

・コッツ、ヤズノ ホー~デ トッカッタデア。こっち、谷地のほうで(エビを) とったじゃない。

・センに ホラ タマ~ゴ ナサネグ ナッド ツ~ブスガッタデア ナエ、トリナノ ナ。以前、ほら、卵を産まなくなるとつぶしたじゃない、ね、ニワトリなんかね。

5. 2 ガコ・ガソ・ガラ

疑問詞なしたずね文で、たずねの対象となる具体物の存在するなわばりをさししめす。

○ガコ

たずねの対象となる具体物が話し手のなわばりにあることをしめす。独話的に発話されることもある。

・オマエナガコ? これ、あなたの?

・オガスダベガコ? これ、お菓子だろうか?

○ガソ

たずねの対象となる具体物が聞き手のなわばりにあることをしめす。

・オマエナガソ? それ、あなたの?

○ガラ

たずねの対象となる具体物などが話し手からも聞き手からもはなれたところにあることをしめす。

・アノシ!ト タガハシ!サンガラ? あの、高橋さん?

5. 3 ヤコ・ヤソ・ヤラ

疑問詞ありたずね文で、疑問の対象となる具体物の存在するなわばりをさししめす。

○ヤコ

たずねの対象となる具体物が話し手のなわばりにあることをしめす。独話的に発話されることもある。

・ナにヤコ? これなに?

・コエズ ナにヤコ? これなに?

○ヤソ

たずねの対象となる具体物が聞き手のなわばりにあることをしめす。

・ナにヤソ? それなに?

・ソエズ ナにヤソ? それなに?

○ヤラ

たずねの対象となる具体物などが話し手からも聞き手からもはなれたところにあることをしめす。

・アソゴサ アンナ ナにヤラ? あそこにあるの、なに?

・アノシ!ト ダレヤラ? あの、だれ?

- ・ドゴノ シ！トヤラ？ あの人、どこの人？
 - ・ナに スに キ！タナヤラ？ あの人、なにしに来たの？
- ヤなし
- ・ナンダコ？ これ、なに？

5. 4 ベコ・ベソ・ベラ

のべたて推量文で、推量の対象となる具体物の存在するなわばりをさししめす。

○ベコ

- ・センベ〜ダベコ。これはせんべいだろう。
- ・ゴネンスノ カワリ〜ダベコ。これはご年始の代わりだろう。(品物について)
- ・ゴネンスに コネガッタガラダベコ。これはご年始に来なかったからだろう。(品物について)
- ・コエズア ショーヒンケンダベコ。これは商品券だろう。

○ベソ

- ・ショーヒンケンダベソ。それは商品券だろう。

○ベラ

- ・ショーヒンケンダベラ。あれは商品券だろう。(作例)

このほかに、つぎのような用法がある。

○ベコ

話し手が「いまの」「この」状況から判断する。

- ・クンベコ。もう来るだろう。(もうこの時間だから)
- ・クンベコハー。もう来るだろう。
- ・ソロソロ カエッテ クンベコハー。もうそろそろ帰って来るだろう。

○ベソ

「そのこと」について「聞き手」になげかける。

- ・オラエ〜デモ モッテ〜ガンナエベソ。うちでも持って行かなくちゃならないだろうね。
- ・ナにガ モッテ〜ガンナエベソ。なにか持って行かなくちゃならないだろうね。

5. 5 ケラ

疑問詞ありたずね文で、おもいだしながらたずねる。コ系、ソ系はなく、ア系のみである。文脈指示の用法で、聞き手と共有すると判断した情報についておもいだしながらたずねたり、独話的に発話したりする。

○ケラ

- ・ダレダケラ？ あれはだれだっけ？
- ・ナにダケラ？ あれはなんだっけ？
- ・アノシ！ト ドゴラヘンダケラ？ あの人はどのへんだっけ？

- ・ドゴノ シ！ト~ダケラ？ あの人はどこの人だっけ？
- ・ナンにズノ ヒー シ！タンダケラ？ あれは何日の日にしたんだっけ？
- ・トー~ガンテ ナンツ~ケラ？ 冬瓜って、なんて言ったっけ？
- ・アエズ ナにツ~ア~ダケラ。あれ、なんて言うんだっけ？
- ・ナ~エテ ユッタケラ コゴ。なんて言ったっけ？ ここ。

このほかに、疑問詞なしでね文で、おもいだしながらたずねる~ケガラがあるはずだが、用例にはなかった。

- ・コノ サゲ~ダケガラ？ (あのときに飲んだのは) この酒だっけ？ (作例)
- ・オレモ コサ キ！ッタッタケガラ？ (あのときは) おれもここに来てたっけ？ (作例)

文献

金田章宏(2004)「述語の指示性—指示語の文法化と「コソアリティ」」『国文学 解釈と鑑賞』7月号